

大里
知子
著

会いたくても会えない
「アタタ」へ

大里知子著

会いたくても会えない
「アナタ」へ

A19698



大里知子（オオサト・トモコ）

1941年11月21日

中国山東省芝罘市（現煙台市）で父文祐（医師），母幸子の3女として出生。生後4カ月で脳性小児マヒに見舞われ，重い後遺症に。

1946年8月23日

終戦のため母にオンブされて引揚げる。

1964年1月1日

父の郷里，秋田県鹿角郡花輪に落ち着く。（現・鹿角市花輪堰向19）

1948年ごろから

母の手ほどきで読みかたの勉強を始める（就学猶予）。

1964年3月13日

カナタイプを購入。初めてコミュニケーションの手段を持った。

1971年10月31日

処女作『アテナノナイトガミ』を刊行し，全国に多くの「アナタ」を得る。

会いたくても会えない「アナタ」へ

ほるぶ叢書 3

1980年5月10日 初版発行©

¥ 1,300

著 者／大里 知子

発行者／中森 蔭人

発行所／㈱ほるぶ総連合

〒160 東京都新宿区新宿 2-19-13

電 話 03(354)8371

発売元／㈱ほるぶ出版

〒160 東京都新宿区新宿 2-19-13

電 話 03(354)7031

製 作／東京連合印刷株式会社

※落丁本・乱丁本はお取替いたします。

0095-030313-7791

発刊に寄せて

不思議なバッテリー女性

渡部 誠一郎

物や金を使えば、無くなる。石油不足の悩みなどその最たるものだろう。が、人間の頭脳はそうではないらしい。使えば使うほどみががかり、輝きを増すようである。人間とは使った電力量以上のものが同時に充電されていく不思議なバッテリーのようである。知子さんの二集目の随筆集『会いたくても会えない「アナタ」へ』を拝見して、そんな感想を覚えた。

処女出版『アテナノナイトガミ』から数えて八年半。その間、"黒豆闘病事件"や激しい筋肉痛に悩まされることがなかったら、二集目はとうに上梓されていたろうし、その過程でより容量を増したであろうバッテリーによって、もはや三集目を出版していたかもしれない。彼女

にとつて全く惜しい時間の経過だったと思う。

だが、ゲートは「ウイルヘルムマイスター」の中で羊飼いの老人に「泣きながらパンを食べたことのない者は真の味を知らない」と言わせているし、ジョウル・チャンドラ・ハリスは「欲する物がすべて手に入りつつある時は警戒せよ。肥えてゆく豚は幸運なのではない」とも言っている。ヘリコプターで労せずして登った山よりも、一步一步汗を流しながら歯を食いしばって頂上をきわめた方がはるかに喜びも大きいはずである。人間バッテリー論でいけば、それはとりもなおさず、より高い山へ登れる能力を培ったことを意味するのではあるまいか。

とにかく筆舌に尽くしがたい困難や障害を乗り越えて、より光彩を増した珠玉の二集目をものされたことは、前作の好評がフロックでなかったことを実証するものでもあり、自称「兄」の一人としてわがこと以上の喜びである。

人生は芝居のようなもので、上手な俳優が乞食になることもあれば、大根役者が殿様の役をやることもある。このデンでいけば、知子さんは作品のすばらしさを見る限り、あるいは大根役者なのかもしれない。が、根っからの大根なら、これほど見事な殿様を演ずることはできない。失礼ながら身体的にはどうあれ、その努力と研さんによってカナタイプという舞台ではあつぱれな名優ぶりを披露——と言えば、より正確になろうか。

知子さんはその障害ゆえに、義務教育すら受けたことがないし、家庭教師についたわけでもない。それでいて、このごろの大卒など到底及ばぬ能力や知識を持っておられるのはどうしてなのだろうか。日々命がけで生きてきた者と、高額の授業料をムダ遣いしてきた「遊学生」との差に違いはない。カメがウサギに勝てたナゾも、まさにこの点にある。みごとに二つ目の山を征服してみせた、それも膨大な汗とひき換えに成された厳粛な事実、同病の人びとに生きる勇気とパワーを与えずにはおくまい。人生の燦たる金字塔である。一人でも多くの人に読んでいただきたいと思うゆえんである。

前作に一筆書かせていただいた縁で、今回再びペンを執る機会を与えられたことを無上の光栄とするものである。三集目の上梓をこい願う気持ちはいよいよつのるばかりであり、その日の一日も早からんことを神に祈りたい。苦しんで強くなることがいかに崇高なことをしみじみ教えられたように思う。

(秋田魁新報社編集局総務・論説委員)

目 次

発行によせて	
不思議なバッテリー女性	渡部誠一郎
車いす ヨーロッパの旅	17
初めての飛行機	19
ストックホルムで	21
コペンハーゲンで	24
ロンドンで	28
パリで	30
アムステルダムで	33
あちらの食べ物	35
ヨーロッパの人びと	37
ボランテニア	40

次の目標は世界一周.....	42
『アテナノナイトガミ』——その後.....	45
P T A 的男性.....	46
本ができたとき.....	47
素直さ.....	48
「アナタ」について.....	49
アドバイス.....	51
インタビュー.....	53
年齢.....	54
軽率.....	55
なぜ苦しいことを.....	57
写真嫌い.....	59
わかるということ.....	60
カナ文字.....	62

希望	63
ウーマン	65
香水	66
女らしい影	67
選んでもらうこと	68
ミ・フ・エニスト	69
無知	71
みじめさ	72
厄年	74
へんしーん	76
たばこの煙	77
本を読んで	79
書かれること	80

手をかけること	84
理想と現実	86
人と人との間 あいだ	91
気が利くこと	92
すばらしい人	93
絶対と折角	95
お付き合い	96
間違い電話	97
沈黙は金	98
言葉と行動	99
裏・表	101
明治のおばあさん	102
已年生まれ	103
自信	105

自分だけの友	106
メモリー東京	109
にわかな上京	110
スカイプロムナード	111
国会議事堂	113
皇居	115
高島屋	117
ビル・車・人	118
車いす市民全国集会	121
初めての参加	122
女性問題分科会	125
巡り合い	127
ヨーロッパツアー同窓会	129

乗り物……………	131
一つしかない命——黒豆入院記……………	133
全身麻酔……………	134
咳・痰・汗……………	140
気管腺腫……………	141
三月……………	142
食事……………	143
夜……………	144
一粒の黒豆……………	145
ゼロから出発……………	146
ひとりごと……………	149
万人にではなく……………	150
時には……………	151

予期していた出来事	152
独占物	154
人はみんな	156
メロディ	159
マドンナの宝石	160
メロディ	161
タンゴ	162
愛	165
好きになることは負けではない	166
えくぼはえくぼ	167
一目ぼれ	168

行き先未定	171
黄色の季節	172
心の天気	173
柔軟性	174
折詰弁当	176
ひとり旅	177
地球儀	178
自殺	179
整理・整とん	180
肩越し	182
年賀はがき	183
善意	184
不安と安定	185
対照的な車いすの上の体験	186

無関心	187
アイバンク	188
十二の月の物語	190
真珠	191
寝顔	192
折にふれて	195
開き直りの言い分	196
魔の五月	202
盆踊り	209
名月	210
話題	211
市役所のお茶	212
明正選挙	213
女ってこうなんです	215

這つても黒豆	216
末っ子	218
気仙沼	219
レポーター駆け出し記	221
自分の環境を活かして	228
苦しい時	231
女の体	233
予定年齢	237
五木寛之氏との違い	239
二台目のタイプライター	241
郭公鳥 かつこうどり	243
もし生まれ変わったら	244
私と姪 めい	246
明子	248
「好き」という言葉	250

多くの「アナタ」からのお手紙——『アテナノナイテガミ』のこたま

母上の歌に不覚の涙……………	東京・練馬・澤田石ふじ子……………	254
“私”への手紙でした……………	秋田・八郎潟・小玉 英子……………	255
身障の姉にも読ませたい……………	秋田市……………高橋登喜子……………	257
二冊目の出版を期待……………	埼玉・川越……………大出 雅一……………	259
中高校教室の大きな話題に……………	東京・台東……………徳田 順吉……………	260
お互いがんばりましょう……………	福島・矢吹……………青山 雪江……………	262
出版、心からおめでとう……………	秋田・小坂……………高瀬 博……………	263
子供達の指導の糧に……………	福島・郡山……………上遠野丈夫……………	266
胸にジーンと……………	東京・町田……………大越 キヨ……………	267
育児の中での感動……………	埼玉・蕨……………湊 美都子……………	269
家族で回し読み……………	福岡・那珂川・城戸嘉寿子……………	270
同じ身障者として共感……………	秋田市……………谷藤 久子……………	272
強い意志と行動力に驚く……………	秋田・大館……………久保沢笑子……………	273